

令和5年度

教育委員会点検・評価報告書

令和7年2月

柳津町教育委員会

目 次

はじめに

I	教育委員会の活動状況	-----	1
II	教育委員会重点施策点検・評価一覧表	-----	7
III	各重点施策の点検・評価	-----	10
	○ 用語解説	-----	11
	① 学校教育の充実	-----	13
	② 生涯学習の推進	-----	39
	③ 生涯スポーツとレクリエーションの推進	-----	41
	④ 地域行事の継承、文化財の保存・活用と芸術文化の振興	-	44
IV	点検・評価に関する有識者の意見	-----	48
	1 点検・評価に関する有識者名簿	-----	49
	2 点検・評価に関する有識者の意見	-----	50
《 資 料 》			
	・柳津町教育委員会の点検・評価の概要	-----	54
	・柳津町教育委員会事務管理及び執行状況の点検評価実施要綱	-----	55

はじめに

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が公布され、「教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。」とされました。

柳津町教育委員会は、平成20年度から、法の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民への説明責任を果たすため、「教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価」を行い、その結果を報告書にまとめ、議会への提出し、ホームページ等により公表しております。

令和5年度においては、第6次柳津町振興計画に掲げる将来像「みらい創生。ひと・ゆめ・れきしをつなぐまち」、そして教育政策の基本目標である「豊かな心を育むまちづくり」の実現に向け、4つの教育重点施策を積極的に取り組んで参りました。

点検・評価にあたっては、教育委員会の活動状況及び教育重点施策を評価対象とし、また、学識経験者の知見の活用については、本町の教育行政に関わりのある方や各町立小中学校PTA会長から、教育委員会が行った点検・評価（自己評価）の結果について、ご意見をいただきました。

この「点検・評価」の結果を活かし、今後も柳津町の教育行政の一層の充実と発展に努めて参りますので、町民の皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年2月

柳津町教育委員会

I 教育委員会の活動状況

1 教育委員会委員

職 名	氏 名	備 考
教 育 長	神 田 順 一	就任：平成 31 年 4 月 1 日から 任期：令和 7 年 9 月 30 日まで
職務代理者	鈴 木 礼	就任：平成 28 年 10 月 1 日から 任期：令和 6 年 9 月 30 日まで
委 員	鈴 木 亘	就任：平成 28 年 10 月 1 日から 任期：令和 5 年 9 月 30 日まで (任期满了により退任)
委 員	天 野 百合子	就任：平成 30 年 4 月 1 日から 任期：令和 8 年 9 月 30 日まで (令和 5 年 9 月 30 日退任)
委 員	上 田 精 一	就任：令和 3 年 10 月 1 日から 任期：令和 7 年 9 月 30 日まで
委 員	鈴 木 喜 代	就任：令和 5 年 10 月 1 日から (新任) 任期：令和 8 年 9 月 30 日まで
委 員	金 子 陽 亮	就任：令和 5 年 10 月 1 日から (新任) 任期：令和 9 年 9 月 30 日まで

2 教育委員会の開催状況

- 定例会 1 2 回
- 臨時会 1 回

3 教育委員会の審議・協議・報告の内容

【定例会】

月 日	回数	主 な 審 議 ・ 協 議 ・ 報 告 内 容
4/28	第 4 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 5 年 4 月の教育長業務報告について ・ 令和 5 年度柳津町の教育重点施策について ・ 各学校の学校経営ビジョンについて ・ 各学校の人事配置について ・ 町会計年度任用職員等の採用について ・ 学校関係の新型コロナウイルス感染症の状況について ・ 町校長会・教頭会・教育研究会の組織について ・ 柳津町立小・中学校英語検定料補助金交付要綱の制定について ・ 柳津町学校運営協議会委員の委嘱について
5/30	第 5 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 5 年 5 月の教育長業務報告について ・ 各学校の教育活動の状況について ・ 令和 5 年第 2 回柳津町議会定例会に提案する補正予算について

		<ul style="list-style-type: none"> ・東北六縣市町村教育委員会連合会教育委員・教育長研修会及び定期総会について ・町のスポーツ大会について ・新潟県出雲崎町とのスポーツ交流について ・令和5年度やないづ学校運営協議会活動計画について
6/28	第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年6月の教育長業務報告について ・各学校の教育活動の状況について ・町議会第2回定例会の報告について ・福島県市町村教育委員会連絡協議会教育委員・教育長研修会と会津ブロック研修会について ・斎藤清美術館夏季特別企画展とオープニングセレモニーについて ・町スポーツ大会に関するアンケートの集計結果とあり方について ・伝統食調査について ・第1回やないづ学校運営協議会の報告について
7/25	第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年7月の教育長業務報告について ・各学校の教育活動の状況について ・令和5年第1回柳津町議会臨時会に提案した補正予算について ・柳津町海外派遣事業補助金交付要綱の一部を改正する訓令について ・令和6年度使用教科用図書採択について ・町スポーツ大会の見直しについて ・二十歳のつどいについて ・奥会津文化施設間連携企画展「奥会津の縄文」について ・第2回やないづ学校運営協議会の報告について
8/24	第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年8月の教育長業務報告について ・令和5年第3回柳津町議会定例会に提案する補正予算について ・柳津町教育委員会委員の辞職同意について ・町海外派遣事業ブリティッシュヒルズでの研修について ・令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について
9/28	第9回	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年9月の教育長業務報告について ・各学校の教育活動の状況について ・新型コロナウイルス感染症の感染状況について ・町議会第3回定例会の報告について ・教育委員会委員の任命に係る議会同意について（2件） ・教育長職務代理者の指名について ・教育委員会傍聴人規則の一部を改正する規則について ・やないづスポーツフェスタの開催について ・第3回やないづ学校運営協議会の報告について

10/24	第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年10月の教育長業務報告について ・各学校の教育活動の状況について ・柳津町自治功労者表彰について ・第35回ふくしま駅伝について ・やないづスポーツフェスタのアンケート結果について ・令和6年度柳津町の教育重点施策（案）について
11/28	第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年11月の教育長業務報告について ・各学校の教育活動の状況について ・令和5年第4回柳津町議会定例会に提案する補正予算について ・やないづ学校運営協議会からの人事に関する要望について ・令和5年度ふくしま学力調査の結果について ・体力・運動能力テストの結果について
12/27	第12回	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年12月の教育長業務報告について ・各学校の教育活動の状況について ・町議会第4回定例会の報告について ・令和5年度第1回柳津町・三島町学校給食センター運営委員会定例会について ・令和6年度教育課程の編成について
1/26	第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年1月の教育長業務報告について ・各学校の教育活動の状況について ・令和6年度当初予算査定について ・令和4年度教育委員会点検・評価報告書について（原案） ・第4回やないづ学校運営協議会の報告について
2/28	第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年2月の教育長業務報告について ・各学校の教育活動の状況について ・卒業証書授与式等について ・町教職員離任式・転入教職員披露式について ・令和6年第1回柳津町議会定例会に提案する令和5年度補正予算及び議案について ・令和6年第1回柳津町議会定例会に提案する令和6年度当初予算について ・令和4年度教育委員会点検・評価報告書について ・第5回やないづ学校運営協議会の報告について
3/28	第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年3月の教育長業務報告について ・各学校の教育活動の状況について ・町議会第1回定例会の報告について ・教職員人事異動・町会計年度任用職員採用について ・令和5年度第2回柳津町・三島町学校給食センター運営委員会定例会について ・令和6年度柳津町の教育重点施策について

【臨時会】

月 日	回 数	主 な 審 議 ・ 協 議 ・ 報 告 内 容
3/4	第 1 回	令和 6 年度柳津町立学校職員の人事について

4 教育委員会委員の主な活動（学校行事・研修、生涯学習関係行事等）

月	日	主 な 活 動	出 席 者
4	3	新任教職員歓迎披露式	教育委員
	6	小・中学校入学式	教育委員
5	1	町教育研究会総会	教育委員
	8	県市町村教育委員会連絡協議会総会	教育長職務代理者
	10	町小・中学校PTA連絡協議会総会	教育委員
	11	県市町村教育委員会連絡協議会両沼支会評議員会	教育長職務代理者
	30	県市町村教育委員会連絡協議会両沼支会春季総会	教育委員
6	28	町総合教育会議	教育委員
7	3	社会を明るくする運動駅頭広報	教育長職務代理者
	6・7	東北六県市町村教育委員会連合会総会及び教育長・教育委員研修会（秋田県大館市）	教育長職務代理者
	14	斎藤清美術館夏季特別企画展オープニングセレモニー	教育委員
	18	町いじめ問題対策連絡協議会	教育長職務代理者
	21	町小学校水泳記録会	教育委員
	25	県市町村教育委員会連絡協議会会津ブロック研修会	教育委員
8	15	町成人式～二十歳のつどい～	教育委員
	24	県市町村教育委員会連絡協議会教育委員教育長研修会	教育委員
9	28	町小学校陸上記録会	教育委員
10	2	教育委員任命書交付式	教育委員
	21	西山小きらきらフェスタ	教育委員
	21	柳津小創立150周年記念式典・秋まつり	教育委員
	24	県市町村教育委員会連絡協議会両沼支会評議員会 県市町村教育委員会連絡協議会両沼支会秋季総会	教育長職務代理者 教育委員
	28	会津柳津学園中文化祭「柳輝祭」	教育委員
11	19	ふくしま駅伝	教育委員
	27	新任教育委員研修	新任教育委員
	28	町小・中学校PTA連絡協議会 令和5年度「柳津町の教育講演会」	教育委員
12	14	町海外派遣事業実行委員会	教育長職務代理者
	22	斎藤清美術館冬季特別企画展オープニングセレモニー	教育委員
1	10	町PTA連絡協議会新年会	教育委員
	17	町海外派遣事業実行委員会	教育長職務代理者

2	20	町いじめ問題対策連絡協議会	教育長職務代理者
3	13	中学校卒業証書授与式	教育委員
	22	小学校修了・卒業証書授与式	教育委員
	28	町教職員離任式	教育委員

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、柳津小学校、西山小学校運動会は来賓出席の見合わせあり

5 教育委員会活動の情報発信

- ◆ 町広報誌「広報やないづ」や「やないづ教育ねっと」に掲載

Ⅱ 教育委員会重点施策 点検・評価一覧表

II 柳津町教育委員会重点施策点検・評価一覧表

重点施策	基本事業	主な取り組み内容	達成度	事務担当
学校教育の充実	1 確かな学力の向上 (かしこい子どもに)	「確かな学力向上グランドデザイン」による学習指導 柳津町学力向上推進事業(町教研への委託) 全国標準学力検査の実施	B	学校教育係
	2 豊かな心の育成 (意欲をもってやり抜く子どもに)	道徳教育、特別活動における指導 体験的活動、ボランティア活動の重視 学校図書の整備と読書活動の推進 いじめ、問題行動の早期発見、早期対応	B	
	3 健やかな身体の育成 (たくましい子どもに)	学校保健体育、部活動の指導 食育計画の作成と指導 全国体力テストの実施	B	
	4 特別支援教育の充実	教育支援委員会の開催 特別支援学級の整備	B	
	5 小・中(小・小)連携教育の 充実	小・中学校間連携教育の推進 小・小学校間連携教育の推進 保・小学校間連携教育の推進	B	
	6 情報教育の充実	学校教育用パソコン等ICT整備事業 情報モラル教育の推進	A	
	7 英語教育・国際理解教育の 充実	英語教育の推進 外国青年(英語指導助手)招致事業	B	
	8 教育環境・条件の整備充実	教材教具整備事業 就学援助事業 児童生徒通学費補助事業 高等学校等就学支援給付金事業 高校生奨学金貸与事業 教職員福利厚生事業 教員住宅管理事業 スクールバス運行事業 複式指導解消支援教員の配置 学校施設等改修整備事業 英語検定料補助事業 夏季・秋季学習会講師派遣事業	A	

達成度 A=十分に達成 B=ほぼ達成 C=やや不十分 D=不十分

II 柳津町教育委員会重点施策点検・評価一覧表

重点施策	基本事業	主な事務事業	達成度	事務担当
生涯学習の推進	1 興味・関心を抱く学習機会の創出と町民同士の交流促進	シニアサークル「福寿学園」「養寿学園」の開催 成人学級「悠友倶楽部」の開催 料理教室の開催 その他の教室 福島県地域創生総合支援事業(サポート事業)	B	生涯学習係
	2 社会教育施設の設備等の充実	活性化施設「ふれあい館」管理運営事業 図書館整備事業 地区集会所施設の整備補助事業	A	
生涯スポーツとレクリエーションの推進	1 楽しさを感じるスポーツ事業の提供	各種町民スポーツ大会等の開催 県総体県民スポーツ大会への参加 ふくしま駅伝競走大会への参加 市町村対抗軟式野球大会・ソフトボール大会への参加 町体育協会運営事業 スポーツ推進委員会の開催と活動	B	生涯学習係
	2 スポーツ施設及び設備の整備充実	運動公園施設整備事業	B	
	3 指導者の確保とスポーツ団体への支援	町体育協会及びスポーツ推進委員会の活動支援 赤べこトータルスポーツの活動支援	C	
地域行事の継承、文化財の保存・活用と芸術文化の振興	1 文化財の適切な保存・管理	町指定文化財管理事業 縄文館活用事業 食文化ストーリー事業 軽井沢銀山煙突保存事業 文化財火災防衛訓練の実施	A	生涯学習係
	2 有識者、関係機関との連携	柳津町文化財保護審議会の開催 有識者や関係機関との協力	B	
	3 やないづ町立斎藤清美術館の充実	斎藤清展事業 県外斎藤清展推進事業 潜在的アートプロジェクト事業、地域アートプロジェクト事業 作品等収集 施設整備	B	美術館係

達成度 A=十分に達成 B=ほぼ達成 C=やや不十分 D=不十分

Ⅲ 各重点施策の点検・評価

○用語解説

ICT機器

ICTとは、Information（情報） and Communication（通信） Technology（技術）の略称で、情報通信技術のことであり、ICT機器とは、コンピュータやインターネット、電子黒板、プロジェクタ等のことをさす

アジリティトレーニング

俊敏性、機敏性、巧緻性を高めるトレーニングのこと

RST（リーディングスキルテスト）

文章に書かれている意味を正確にとらえる力（基礎的な読む力・読解力）を測るテストのことをいう

SSW（スクールソーシャルワーカー）

問題を抱える児童・生徒を取り巻く環境へ働きかけたり、学校に対する支援体制づくりや専門的な助言、関係機関等との連携・調整を行ったりするなど課題解決を図るためのコーディネーター的な福祉の専門職

SC（スクールカウンセラー）

学校の教育相談体制、児童・生徒指導体制の中で、いじめ、暴力、不登校等の問題行動や、発達の問題、精神科領域の問題、家庭環境や親子関係の問題等、児童・生徒が抱えるさまざまな課題について、児童・生徒、保護者、教職員に対し心理的課題の解決に向けてカウンセリングやアセスメント（情報収集・見立て）、コンサルテーション（専門家による指導・助言を含めた検討）等を行う心理の専門職

SNS

ソーシャルネットワーキングサービス（Social Networking Service）の略で、インターネット上のコミュニティサイトのこと

SNSには「LINE」「Facebook」「Instagram」などさまざまな種類がある

NRT

全国的な学力水準を知ることができる全国標準学力検査のことをいう

前年度に学習した内容の定着を確かめる検査でもあり、児童生徒が、どれだけ学習内容を理解できたのか、身についたのかを全国平均と比較して把握ができる

QU

Questionnaire-Utilities の略称で早稲田大学の河村茂雄教授が開発した学校・学級生活への不適応、不登校、いじめ被害の可能性の高い子どもを早期に発見できる「楽しい学校生活を送るためのアンケート」という心理検査のことをいう

学校生活における子どもたちの満足感や意欲、学級集団の状態などを質問紙によって測定するもので、担任は児童生徒や学級の状態を客観的・多面的に理解でき、いじめや不登校、学級の集団としての崩壊などの未然防止に役立てることができる

Zoom

インターネット環境とパソコン等を使って、映像と音声で遠隔にいる相手とコミュニケーションがとれるWeb会議システムのことをいう

町内小中学校の交流授業でも活用している

スクールタクト

紙ではできなかった「動く教材」を簡単に作成したり、タブレットで撮影した写真を一瞬で児童生徒に配布、児童生徒同士で共有するなど、児童生徒、先生の授業をサポートする様々な機能がある授業支援システムのことをいう

T・T指導

T・TとはTeam Teaching（ティーム・ティーチング）の略称で、複数の教員が協力して授業を行う指導方式のことをいう

メディアコントロール

メディア（テレビ、タブレット、スマートフォン、ゲーム機など）に接する時間や、メディアに接する内容等を親がしっかり把握し、制限・制御（コントロール）すること

ロイロノート

すべての授業で使える「思考力」「プレゼン力」「英語4技能」を育てる様々な機能がある授業支援システムのことをいう

【学校教育の充実】

基本事業	1 確かな学力の向上(かしこい子どもに)	
取組の状況	各校において次の指導や活動・事業を実施した (1)「学力向上グランドデザイン」による学習指導 (2)柳津町学力向上推進事業(町教研への委託) (3)全国標準学力検査の実施	
成果と評価	柳津小 B 西山小 A 柳学中 B	全体としての達成度
		B
次年度への課題	町全体としては、 ○ 基礎的な学力定着と、調査結果の分析に基づく読解力の育成をとおして、思考力や判断力、表現力の向上を目指すよう指導助言する。 ○ 少人数の強みやICT機器の効果的活用を生かした、きめ細かな個別最適で協働的な学びの充実を図る。 ○ 全国標準学力検査の現状値を全国平均に近づけることができるように、個に応じた補完指導を丁寧に行うよう参観等で確認する。	

基本事業	2 豊かな心の育成(意欲をもってやり抜く子どもに)	
取組の状況	各校において次の指導や活動・事業を実施した (1)道徳教育・特別活動における指導 (2)体験的活動、ボランティア活動の重視 (3)学校図書整備と読書活動の推進(図書司書2名配置) (4)いじめ、問題行動の早期発見、早期対応	
成果と評価	柳津小 B 西山小 A 柳学中 B	全体としての達成度
		B
次年度への課題	町全体としては、 ○ 「意欲」「自己肯定感」「やり抜く力」などの非認知能力の伸長を図るため、体験的活動やボランティア活動を重視する。 ○ 図書司書と教職員が連携して学校の図書室の充実を図るとともに、保護者等と連携して読書活動の充実を図るよう支援する。	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業	5 小・中(小・小)連携教育の推進	
取組の状況	各校において次の指導や活動・事業を実施した (1)小・中学校間連携教育の推進 (2)小・小学校間連携教育の推進 (3)保・小学校間連携教育の推進	
成果と評価	柳津小 B 西山小 B 柳学中 B	全体としての達成度
		B
次年度への課題	町全体としては、 ○ 学校行事のみでなく、授業実践に関する小小、小中の連携を具体化するよう学校教育アドバイザーを中心に指導助言にあたる。 ○ 保小連携のための職員・教員の交流の機会(相互訪問等)を積極的に設ける。 ○ 柳津町教育研究会を中心にして、9年間を見通した「学びをつなぐ」「育ちをつなぐ」具体的な実践を図る。	

基本事業	6 情報教育の充実	
取組の状況	各校において次の指導や活動・事業を実施した (1)学校教育用パソコン等ICT整備事業 (2)情報モラル教育の推進	
成果と評価	柳津小 A 西山小 A 柳学中 B	全体としての達成度
		A
次年度への課題	町全体としては、 ○ 整備されたICT教育環境を生かし、授業をはじめとする教育活動でICT機器及び支援員の有効活用により、個別最適な学びの実現や情報活用能力の向上を図る。 ○ インターネット上での誹謗中傷やいじめ、インターネット上の犯罪や違法・有害情報の問題の深刻化、インターネット利用の長時間化などを踏まえ、情報モラルの適切な指導が必要。	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業	7 英語教育・国際理解教育の充実	
取組の状況	各校において次の指導や活動・事業を実施した (1)英語教育の推進 (2)外国青年(英語指導助手)招致事業	
成果と評価	柳津小 B 西山小 B 柳学中 B	全体としての達成度
		B
次年度への課題	町全体としては、 ○ 小学校での英語教育の取組を中学校につなぎ、児童生徒の英語力の向上を図る。 ○ 英語指導助手を活用し、発音や聞き取りなどの上達、また、海外の生活、文化などの紹介を通じた国際理解の充実を図る。	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業	1 確かな学力の向上 (かしこい子どもに)	
取組の状況	<p>(1) 「確かな学力向上グランドデザイン」による学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 町赤ベコプランを周知し、自校のプランの共通実践 ○ 「分かった・できた・楽しい」授業の実践 <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上につながるICT機器の活用 (個別最適な学び、協働的な学び) ・学習内容が分かるめあての提示 ・活用力育成のための練習・補充の時間確保 ・複数教員やあ支援員によるT・T指導、課題別、習熟度別学習 ・単元ごとの確実な「わかった・できた」子どもの把握 (単元テスト、活用力育成シート、全国学力・学習状況調査、ふくしま学力調査) ○ ふくしま未来の教室の授業実践 <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学び ・主体的・対話的に学ぶ児童の育成 ○ 学習の環境作り <ul style="list-style-type: none"> ・「赤ベコプラン」の掲示、系統性を意識した指導 ・「ノートDAY」「自主学習コンテスト」の実施 ○ 家庭学習の習慣化 <ul style="list-style-type: none"> ・「家庭学習の手引き」の活用と保護者との連携 (「家庭教育だより」の発行) ・メディアコントロール週間の設定と自主学習の習慣化 <p>(2) 柳津町学力向上推進事業 (町教研への委託)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「主体的・対話的に学ぶ児童の育成」を目指した校内研修の充実 ○ ICT機器の効果的な活用 <p>(3) 全国標準学力検査の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国・県学力調査を利用した補充指導 ○ 活用力育成シート・フォローアップシートの活用 	
成果と評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学力向上グランドデザイン」による学習指導 学習内容がわかるめあての提示、活用力育成のための練習・補充の時間確保や児童の学習意欲を高めるICTの効果的な活用を意識した。 ○ 教務や支援員によるT・T指導や習熟度別指導により、つまずき克服のための個別指導に重点をおいて指導した。 ○ 家庭学習の手引きやICTを活用し、家庭と連携して家庭学習の習慣化を図った。 ○ 全児童に配付されたICT機器を効果的に活用して、児童同士の学び合いと一人一人の児童の深い学びを実現するように努めてきた。 ○ ノートDAYや自主学習コンテストを実施することで、より良いノートのつくり方や学習の進め方を広めることができた。 	<p>達成度</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「授業スタンダード」や「赤ベコプラン」を活用して、日々の授業をさらに充実させるとともにT・Tによる指導や支援員の活用等により個に応じたきめ細やかな指導を一層充実させ学力の向上を図る。また、協働的な学びを推進し、児童が主体的に学ぶ意識を高める。 ○ 効果的なICT機器の活用場面を考え、個別最適な学びと協働的な学びのバランスを考えながら指導方法を検証する。 ○ フォローアップシートや活用力育成シートを各学期に効果的に活用し、基礎学力の確かな定着と活用力の育成に努める。 ○ 学年に応じてICTを適宜活用したり、家庭学習や自主学習の取り組み方について家庭との連携を密にしたりしながら、家庭学習の充実を図る。 ○ RSTの結果を分析し、読解力を高める方策を、日常の授業に取り入れることができるようにする。 	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業	1 確かな学力の向上 (かしこい子どもに)	
取組の状況	<p>(1) 「確かな学力向上グランドデザイン」による学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ふくしまの「授業スタンダード」、柳津町の「赤ベコプラン」をもとに、本校の学力向上グランドデザインを作成し、共通実践を重ねてきた。とくに、児童が主体的に活動する時間と振り返りの時間の確保に重点を置き、授業改善に努めてきた ○ 家庭学習の充実とメディアコントロールを目指して、家庭学習の手引きを活用して家庭学習での約束事や家読の取り組み方、メディアコントロールの大切さについて、保護者と共通理解のもと、連携することができた。 <p>(2) 柳津町学力向上推進事業 (町教研への委託)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 筑波大学付属小学校 大野桂 先生による示範授業と講演から授業改善に向けた研修を行い、校内における授業研究会でも発問の工夫や単元で扱う内容の系統性などを踏まえた授業研究を進めてきた。 <p>(3) 全国標準学力検査の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 実施に向けて、夏季休業および冬季休業時に国語科・算数科の復習に力を入れて定着を図ってきた。また、個の学習状況を分析し、課題となる部分について習熟を重ねてきた。 	
成果と評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年間をとおして児童が主体的に活動する時間と振り返りの時間を確保することを重点化して取り組むことで、学習に対する主体性や言語活動の充実が見られた。 ○ 町教研主催の会津柳津学園中学校の授業公開では、教科の特性やICTの活用等、小中連携の視点から学ぶことができた。 ○ NRTの結果については、国語・算数ともに前年度より大きく上昇しており、個の課題に応じた学習支援を継続してきた成果である。 	<p>達成度</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">A</p>
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語・算数の教科における個別の課題について定着を図るとともに、リーディングスキルに視点に基づいた学習指導を継続していきたい。 ○ 現職教育として位置づけられた校内授業研修だけでなく、積極的に教員相互の互見授業を増やしていきたい。 ○ 全国学調・ふくしま学調・アシストシートなどを活用して、思考力や判断力、表現力を高めて生きた。 	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業	1 確かな学力の向上 (かしこい子どもに)																									
取組の状況	<p>(1) 「確かな学力向上グランドデザイン」による学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 研究主題「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり～誰もが「わかる」「できる」喜びを実感できる授業の工夫～」に基づく学力向上に向けた取組 ○ 家庭学習の充実 <p>(2) 柳津町学力向上推進事業 (町教研への委託)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全体研修会や学力向上研修会の実施 ○ 中学校教諭による小学生への指導や相互の授業参観 <p>(3) 全国標準学力検査の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全国標準学力検査の結果分析と課題の共有、補充指導 																									
成果と評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒たちにとって身近な題材や教材を取り入れ、導入を工夫したことで、授業への興味・関心が高まり、主体的な学びにつなげることができた。 ○ スクールタクトなどの学習支援ソフトの活用により、生徒一人一人が自分の考えを表現し、それをもとに協働的な学習を行ったり、自分の考えを広げたりすることができ、深い学びにつなげることができた。 ○ 定期テスト前の家庭学習計画の実施や教科担当者による自主学習ノートの確認、放課後学習会、年5回の学力コンテストの実施などを行うことで、学習意欲や家庭学習の充実を図ることができた。 ○ 本校での全体研修会や筑波大学附属小学校大野教諭を招いての学力向上研修会の実施により、授業力の向上や授業改善につなげることができた。 ○ 授業スタンダードチェックシートを活用して、観点ごとに振り返ることで授業の改善につなげることができた。 ○ 教科の結果分析により課題を共有し、補充指導と年度末・始休業の課題について精選を図り、次年度につながるような課題設定を行うことができた。 ○ 全国標準学力検査 偏差値平均 <table border="1" data-bbox="352 1368 1300 1666"> <thead> <tr> <th></th> <th>1年</th> <th>2年</th> <th>3年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国語</td> <td>49.5</td> <td>46.9</td> <td>51.5</td> </tr> <tr> <td>社会</td> <td>49.5</td> <td>48.6</td> <td>52.1</td> </tr> <tr> <td>数学</td> <td>45.5</td> <td>46.1</td> <td>48.1</td> </tr> <tr> <td>理科</td> <td>47.8</td> <td>47.7</td> <td>48.2</td> </tr> <tr> <td>英語</td> <td>46.0</td> <td>45.1</td> <td>48.9</td> </tr> </tbody> </table>		1年	2年	3年	国語	49.5	46.9	51.5	社会	49.5	48.6	52.1	数学	45.5	46.1	48.1	理科	47.8	47.7	48.2	英語	46.0	45.1	48.9	<p>達成度</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>
	1年	2年	3年																							
国語	49.5	46.9	51.5																							
社会	49.5	48.6	52.1																							
数学	45.5	46.1	48.1																							
理科	47.8	47.7	48.2																							
英語	46.0	45.1	48.9																							
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「よむYOMUワークシート」を週1回活用して、読解力の向上につなげていく。 ○ 生徒の問いや考えをつなぐ教師のコーディネート力、指導力の向上や教師主導からの脱却などが必要である。 ○ 授業や家庭学習におけるICTの効果的な活用について、引き続き校内研修等を行う。 ○ 授業参観や保護者会、三者面談などを通じて、生徒一人一人の実態、課題について家庭と共通理解を図り、家庭学習の充実に向けた連携をさらに図っていく。 ○ 各検査に向けて過去問の実施など事前指導を強化していく。 ○ 各検査結果から本校の課題を把握し、授業の改善に取り組んでいく。 																									

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業	2 豊かな心の育成 (意欲をもってやり抜く子どもに)	
取組の状況	<p>(1) 道徳教育、特別活動における指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳の授業の充実と日々の道徳的実践力の向上 ○ 道徳教育指導内容の日常的な活用 ○ 自主的・自律的な態度並びに互いに賞賛し合える態度の育成 ○ 自己理解の推進と自己存在感や自己肯定感の向上 ○ 「特別の教科道徳」の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観での実施 ・別葉の作成 ・評価観点の確認 <p>(2) 体験的活動、ボランティア活動の重視</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 福祉施設との交流活動 ○ 米づくり体験活動 (4・5年) ※地主さん、JA、農青連の協力 ○ 森林環境学習 (全学年) ※町農林振興班の協力 ○ 町小学校合同宿泊学習 (5年)、合同修学旅行 (6年) ○ 各教科、総合的な学習、生活科における体験的活動 (各学年) <ul style="list-style-type: none"> ・町の観光、歴史、町探検、見学、調査等 ・遠足における豊かな体験活動 (1～4年) ・西山小との交流学习の充実 (ICTを活用したオンライン交流) <p>(3) 学校図書 の整備と読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年間を通じた読書冊数の向上・図書室来室児童数の向上 ○ 各学年の読み聞かせの実施 (町読み聞かせボランティアの活用) ○ 図書館教育担当教員と図書館司書の連携による読書意欲の喚起 <ul style="list-style-type: none"> ・読書キャンペーンの実施 ○ 各学年の必読書の設定と読書マラソン <p>(4) いじめ、問題行動の早期発見、早期対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教育相談 (児童年3回、保護者年1回) といじめアンケートの実施 ○ Q Uを活用した実態把握と課題に基づく指導・人間関係の改善 ○ S Cとの連携 	
成果と評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 150周年事業と秋まつりを組み合わせ、地域住民に対しても各学年の学習成果を伝えることができた。 ○ 遠足、宿泊学習、修学旅行では、豊かな体験活動によって知見を広げることができた。 ○ 読書に関する様々なキャンペーンを実施することで、図書室来室数と読書冊数を向上に努めた。 ○ いじめ問題や児童の様々な問題について、関係する教職員と家庭とが連携を図り、早期発見・早期対応による解決に向けた組織的な取り組みを実施することができた。 ○ 町役場や中央公民館と連携し、地域素材を扱った学習を推進した。 	<p>達成度</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ ゲストティーチャーの活用により、人権への関心を高める実践を取り入れていく。 ○ 学校と保護者との連携により、家庭での読書活動の充実を図る。 ○ メディアコントロール等への取り組みを通し、児童の自己マネジメント力を高める指導を継続する。 ○ 学級力の向上、児童一人ひとりを認め・誉め・励ます声かけと児童と教師の対話を組織的に行うことで積極的な生徒指導を充実させ、自己肯定感・非認知能力の向上を図る。 	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業	2 豊かな心の育成 (意欲をもってやり抜く子どもに)	
取組の状況	<p>(1) 道徳教育、特別活動における指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 特別の教科「道徳」においては、様々な道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、道徳的判断力、心情、実践意欲を高めてきた。特別活動では縦割り活動によって下級生を思いやる心情や自主的に活動する態度を育成することができた。 <p>(2) 体験的活動、ボランティア活動の重視</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者の擬似体験や健幸クラブとの交流をとおして、高齢者の立場になって考えることや喜んでもらえるためにできることを考える機会になり、地域の方々との関わりを深めることができた。 ○ 総合的な学習の時間においてきらきらフェスタにむけた太鼓の練習を重ねてきた。西山地区の各所から太鼓を借用し、「ぶち合わせ太鼓」としてきらきらフェスタで発表することができ、さらに健幸クラブや地域の方にお知らせして発表会を開催した。 <p>(3) 学校図書の整備と読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 図書館司書を中心に図書室の読書環境の充実に努めてきた。やないづ学校運営協議会でも話題になったが、児童が本を手にとりやすい工夫や、時節に合わせたコーナー作成、児童主体のポップづくりなど、年間をとおして取り組んできた。 <p>(4) いじめ、問題行動の早期発見、早期対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 定期的な教育相談だけでなく、児童とのコミュニケーションを密にすることで、いじめの早期発見に努めてきた。問題発見時には積極的に認知し、全職員で組織的に対応できるよういじめ対策委員会で協議した。 	
成果と評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学んだ道徳的価値について、特別活動や他の教科においても関連させながら、よりよく生きるための基盤づくりを進めることができた。 ○ 地域の方からはお褒めの言葉をいただき、保護者からはもっと広く知らせて開催してほしいという要望もあるほど、高評価だったので、児童が地域に貢献できる喜び、所属感・達成感をもつことができた。 ○ 学校における読書冊数は増えている。家庭でも読書できるような働きかけを工夫したい。 ○ 問題発見時には、児童・保護者・町教委と連携を図りながら組織的に対応できた。 	<p>達成度</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">A</p>
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「元気なあいさつ」「時・場所・場面に応じたあいさつ」に力を入れて取り組みたい。 ○ 地域を巻き込んだ「ぶち合わせ太鼓」をより地域の方に知っていただけるように工夫したい。 ○ 学校においては、読書を楽しむ習慣ができているので、家庭でも読書できるような働きかけの工夫が必要である。 	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

[学校教育の充実]

(学校名 会津柳津学園中学校)

基本事業	2 豊かな心の育成 (意欲をもってやり抜く子どもに)	
取組の状況	<p>(1) 道徳教育、特別活動における指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳教育推進教師を中心とした道徳教育の推進 ○ 全校道徳やローテーション道徳の実施など指導方法の工夫 ○ 生徒会活動の充実 ○ 朝鑑賞による非認知能力の伸長 <p>(2) 体験的活動、探究的な学習、ボランティア活動の重視</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 修学旅行や校外学習の実施 ○ 地域ボランティア活動や小中連携によるボランティア活動の実施 ○ 地域の人材や施設を活用した教育活動の実施 <p>(3) 学校図書の整備と読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 朝の読書の実施 (年間を通して) ○ 生徒会図書委員会による読書活動推進に向けた取組や図書室の環境整備の充実 ○ 国語科と文化史でのビブリオバトル (おすすめの本の魅力を紹介し合う) の実施 <p>(4) いじめ、問題行動の早期発見、早期対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒指導委員会を中心とした組織的な対応 ○ スクールカウンセラーや関係機関との連携 	
成果と評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳の授業では、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える授業の充実に努めた。 ○ 全校道徳や校長による道徳授業、ゲストティーチャーを招いての人権講話、スクールカウンセラーによる授業を行い、人間としての生き方について考えを深めることができた。 ○ 町内のごみ拾いボランティアや行事の手伝いなどにより生徒の自主性を育むことができた。 ○ 伝統文化学習や郷土料理学習、縄文館訪問などの地域連携により、学校全体で地域理解を深めることができた。 ○ 学校司書と図書委員による連携を図りながら、新しい図書の紹介や読書活動の啓蒙を行うことができた。 ○ 国語科の授業の中でも読書活動を推進することができた。 ○ 毎週の生徒指導委員会や特別支援委員会を通して情報交換に努めた。また、報告・連絡・相談・確認を密にして組織的に対応した。 ○ スクールカウンセラーによる個別面談や助言をもとに、個に応じた支援をすることができた。 	<p>達成度</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 朝鑑賞を月 1 回実施して、非認知能力を高めていく。 ○ 良寛和尚についての講話により、柳津町の伝統と文化を尊重する態度を育てていく。 ○ 認知症サポートキャラバンを道徳の授業の中で実施していく。 ○ 体験的な活動や探究的な学習を通して自己肯定感を高めていく。 ○ RSTの実施や授業等での読書活動の充実を図り、教育活動全体を通して読解力向上に向けた取組を行っていく。 	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業	3 健やかな身体の育成 (たくましい子どもに)	
取組の状況	<p>(1) 学校保健体育、部活動の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 運動への意欲や技能を高める授業の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・「運動身体作りプログラム」の実践 ・業間のマラソンや縄跳びの取り組み ○ 運動会や校内小学校水泳記録会、マラソン記録会へ向けての教科体育の充実 ○ 外部人材の活用 (外部指導員、中学校教諭、特別非常勤講師による指導) ○ う歯の治療率を高めるための保護者との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・歯磨きカレンダー、カラーテスターの実践 ・保護者への啓発 ○ 肥満傾向児童への個別支援と外部機関との連携 (個別指導・体組成検査) ○ 町小・中学校合同による学校保健委員会の実施 <p>(2) 食育計画の作成と指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「朝食摂取率100%週間」運動の実施 (6月、11月) ○ 「全国学校給食週間」での取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・「給食の歴史」の紹介、特別献立の実施など ○ 「自分で作るお弁当の日」(年2回)の実施 <p>(3) 全国体力テストの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新体力テストの結果分析と体力向上推進計画を踏まえた指導の充実 	
成果と評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「運動身体作りプログラム」を授業に取り入れて実践できた。 ○ 運動会、校内水泳記録会では、児童が自己のめあてを持って意欲的に練習に取り組み、成果を上げることができた。 ○ 中学校教諭や海洋センター職員、会計年度任用職員(特別非常勤講師)の指導による陸上・水泳指導や表現活動(ダンス)を実施できた。 ○ 栄養教諭と連携しながら食育指導について継続的に取り組んできた。朝食調べ等を活用し、食べ方や偏食について指導を続け、改善が見られるようになった。 ○ 「自分で作るお弁当の日」を実施した結果、家族と一緒に意欲をもって楽しんで作る児童が多くなってきた。 ○ 体力テスト結果を分析し、教科体育の指導に生かすことができた。 	<p>達成度</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新体力テストの結果をもとに課題を分析し、体力向上推進計画を基にした教育課程の策定と重点的な指導に努める。 ○ 教科体育の充実を核として継続的に体力・運動能力の向上に努める。 ○ 栄養教諭との連携を図った食育の授業実践を進める。 ○ 肥満傾向をもつ児童や偏食が見られる児童について、学校における食育及び給食指導を中心に、家庭へも呼びかけ、連携を図りながら継続的に指導する。 ○ 日課表に位置付けたマラソンタイム(冬期間はなわとび)を実践することで、体を動かす機会を増やし体力や運動能力を高める。また、体力向上推進計画を全職員で共通理解し課題改善に向け共通実践する。 	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業	3 健やかな身体の育成 (たくましい子どもに)	
取組の状況	<p>(1) 学校保健体育、部活動の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 体育科の授業においては、主運動の前に運動身体づくりプログラムを確実に実施し、基礎体力の向上に努めてきた。また少人数でゲーム(ボール運動)が困難な場合には、複数学級で授業を行う等の工夫をしてきた。 ○ 水泳の学習では、6月に特別非常勤講師としてスイミングスクールの方を招へいし、水泳の技能に応じた基礎的な練習の仕方を学んだ。 <p>(2) 食育計画の作成と指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 毎日、全校生が食堂で給食を食べるので、食事のマナーや配膳の仕方を身につけられるように指導してきた。献立に関する情報についても毎回紹介することで、食文化に触れることができるようにしている。フードロス削減に向けて、食べ残しゼロを目指して取り組んだ。 <p>(3) 全国体力テストの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前年度に実施した新体力テストの結果をもとに「体力向上推進計画書」を作成し、体育の授業だけでなく業間体育(杉っ子タイム)の10分間で課題解消に努めてきた。また、県教委のなわとびコンテストにも挑戦することで、児童の意欲を高めた。 	
成果と評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体育科の授業において、運動身体づくりプログラムの実施と主運動の運動量の確保ができており、児童が運動する楽しさを感じながら学習することができた。 ○ 食育として給食を食べる際に、よく噛んで食べることの指導や好き嫌いをしないで食べることができるように指導してきた結果、ほとんど残食がなくフードロス削減にもつなげることができた。 ○ 年間をとおして業間運動(杉っ子タイム)を継続してきたことで、体力の高まりを実感できた。新体力テストの結果を自分手帳に記録し、個人の課題や目標について振り返ることができた。 	<p>達成度</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 極少人数なためゲーム(ボール運動)が実施しにくいのが、複数学級で実施することで解消してきた。人数が少ない利点を生かし、個々の実態に応じた内容や運動を取り入れて運動に親しみながら体力向上に努めたい。 ○ 業間体育だけでなく、昼休みや放課後など自由に遊ぶ中で運動する習慣を身につけることができるように、休み時間や放課後にゆとりを持たせたい。 	

達成度 A~十分達成 B~ほぼ達成 C~やや不十分 D~不十分

基本事業	3 健やかな身体の育成 (たくましい子どもに)	
取組の状況	<p>(1) 学校保健体育、部活動の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 個別トレーニングメニューの作成と活用 ○ 保健体育の授業や部活動への積極的な参加と運動に対する意欲や技能の向上 ○ 健康や安全への関心の向上と自己管理 <p>(2) 食育計画の作成と指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「お弁当づくり」の実践による食理解の推進 ○ 「朝食について見直そう週間」運動の推進 ○ ふくしまっ子健康・体力「自分手帳」を活用しての食育・健康指導 <p>(3) 全国体力テストの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新体力テストの結果分析により課題を共有し、体力の向上に努めた。 	
成果と評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ コース別による朝の全校ランニングや夏季休業中の1、2年生の体力作り、駅伝練習、常設部の練習などにより総合的な体力向上を図ることができた。 ○ 自己の生活の振り返りによる課題の明確化と生徒、保護者へ必要な情報を提供することができた。 ○ 新体力テストや朝食等のアンケートにより、生徒の実態を把握し、適切な指導を行うことができた。 ○ 新体力テストの結果分析により課題を共有し、保健体育の指導にいかすことができた。 ○ 新体力テストA段階の生徒が女子に多く7名である。男子は1名である。 	<p>達成度</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ フッ化物洗口を実施し、虫歯有病者率や一人平均虫歯数の低減に努めたい。 ○ 薬物乱用防止教室や性に関する学習を通して健やかな身体の育成を図る。 ○ 各個人の伸び率を重視し、保健体育の授業や運動部活動における十分な運動量の確保や授業と校外における体育的活動との積極的な連携を図っていききたい。 ○ スポーツ少年団指導者と連携し、トレーニング内容の確認をしていききたい。 ○ 肥満傾向の生徒への対応について、保護者と連携して改善に努める。 ○ 走力や敏捷性、筋力に課題が見られるため、「走る時間」の絶対量の確保とアジリティトレーニングの強化を図っていく。 ○ 不審者侵入を想定した避難訓練を実施し、危険を回避し安全な行動をとることができる生徒を育成したい。 	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業		4 特別支援教育の充実
取組の状況	<p>(1) 教育支援委員会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 特別支援学級の在籍児童及び次年度特別支援学級入級希望者の情報提供 ○ 各児童の情報及び専門委員による観察結果をもとにした就学に係る審議 <ul style="list-style-type: none"> ・在籍児童 (自閉・情緒障がい学級) … 4 学年 男児 1 名 5 学年 女児 1 名 (知的障がい学級) … 6 学年 男児 2 名 ○ 特別支援教育委員会の定期的な開催と特別な支援を要する児童の支援状況についての共通理解 <p>(2) 特別支援学級の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日程を確認するためのホワイトボード設置など、教室環境の整備 ○ 児童への日々の指導支援 <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級担任と学校支援員の協力による指導 ・教科別での交流学級との学習・生活の交流 ・通常学級在籍児童の取り出し指導 ○ 外部機関や保護者との連携・協議 <ul style="list-style-type: none"> ・保育所、町教育支援委員会、医療機関との連携 ・保護者との懇談と共通理解 ・実態に応じた教育課程の編成 	
成果と評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校支援員や担任外教員が通常学級における特別な支援を要する児童の指導支援に当たったり、取り出し指導を行うことにより、児童一人一人のニーズに応じたきめ細かな指導支援や担任のサポートを行うことができた。 ○ 担任と管理職が協力して支援を要する児童やその保護者に対し、組織的に対応し、就学指導を進めることができた。 ○ 校内特別支援・就学指導委員会を定期的で開催することで情報を共有し組織的に対応することができた。また、SCに授業参観やカウンセリングをしてもらうことで、児童の実態把握ができた。 	<p>達成度</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個別の指導計画や支援計画に基づき、計画的な指導・支援を行い記録簿を累積する。 ○ 必要に応じてSSW、SC、町保健師、養護学校、会津教育事務所、医療機関などの関係機関との連携を図り、適切な就学指導に努める。 ○ 通常学級に在籍する特別な支援を要する児童への取り出し指導の時間・方法等を検討し組織的な取組をする。 ○ 保育所・中学校との連携を取り、就学前や卒業後の情報交換を行うことで、切れ目のない一貫した指導の充実を図る。 	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業	4 特別支援教育の充実	
取組の状況	<p>(1) 教育支援委員会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 毎月行う生徒指導協議会において、校内就学指導・校内特別支援教育についての情報を共有してきた。保護者との面談により小児科の受診結果や合理的配慮についても話し合ってきた。 <p>(2) 特別支援学級の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和5年度は特別支援学級が設置されていない。 	
成果と評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 支援が必要な児童に対して、教育相談や保護者との面談から寄せられた情報と、医療機関を受診した際の診断結果から個の特性を理解し、合理的配慮ができるように対応してきた。 ○ また、保護者の面談から個の特性を知るためにも小児科の受診を進め、その子に合った支援の仕方について計画できるように進めることができた。 	<p>達成度</p> <p style="text-align: center;">B</p>
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 支援の必要な児童に対して、今年度作成した個別の教育支援計画を実態を踏まえて見直すとともに、学校生活の様子、教育相談、保護者との面談、小児科医の診断をもとに個別の指導計画の作成を進めていきたい。 	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業	4 特別支援教育の充実	
取組の状況	<p>(1) 教育支援委員会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各教科等における実態把握とその内容の共有 ○ 支援が必要な生徒に関する本人や保護者の意向を含めた支援策の検討 <p>(2) 特別支援学級の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 通常学級の教室同様の設備を確保した学習環境の整備 ○ 担任や学校支援員を中心としたきめ細かな指導 ○ 本人の学力に応じた学習課題を設定 ○ 必要に応じた社会性や基本的生活習慣についての指導 	
成果と評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内支援委員会を中心に、支援が必要な生徒について、全職員で共通理解を図ることができ、指導の一貫性を図ることができた。 ○ 保護者との話し合いや関係機関との連携することで、生徒を多方面から支援することができる体制を整えることができた。 ○ 今年度は、1年生2名、2年生2名、3年生1名について実態把握と支援策の検討を行った。 ○ コース別学習など個に応じた指導を行うことにより、学習意欲が高まった。 ○ 自立活動や部活動の場面において、基本的生活習慣が身につけられる場面を多く設定できた。 	<p>達成度</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校に入学してからの保護者への説明や検査に時間を要することがあるため、特別な配慮を要する児童のアセスメントや情報交換、共通理解を小学校段階から確実にを行い、小学校と中学校の引継ぎを円滑にしたい。 ○ 必要な支援方法や保護者相談等を早期に実施できる体制を構築していきたい。 ○ 生徒の実態に応じて授業時数を弾力的に運用していきたい。 	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業	5 小・中（小・小）連携教育の推進	
取組の状況	<p>(1) 小・中学校間連携教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小中連携授業参観の実施 (町教研研究授業を通して) ○ 小中連携協議会実施 ○ 合同避難訓練、合同除草の実施、合同ボランティアの実施 ○ 6年生の中学校体験学習の実施(年1回) ○ 「未来の教室」授業実践と参観 <ul style="list-style-type: none"> ・ 3、6年生によるICTを活用した授業実践 <p>(2) 小・小学校間連携教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 宿泊学習事前学習会 ○ 合同宿泊学習 ○ 修学旅行事前学習会 <ul style="list-style-type: none"> ・ オンライン朝交流の実施(年間) ○ 合同修学旅行 	
成果と評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 5・6年生は年間を通して朝交流を行い、宿泊学習や修学旅行前の意識を高めるとともに、6年生は中学校進学にむけた交流を図ることができた。 ○ 授業交流を通して、ICT活用に関する共通認識を深めることができた。 ○ 柳津学園中学校とは合同ボランティアを実施し、児童生徒の協力意識を高めることができたが、天候等により実施できなかった行事もあった。 ○ 合同宿泊学習・修学旅行を実施することで、中学校進学へ向けた仲間意識を高めることができた。また、オンライン交流を通して児童相互の交流を深めることができた。 	<p>達成度</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小中連携については、中学校と相談し、合同避難訓練や合同除草、合同ボランティアの時期を工夫して教育課程を作成するが、適宜連絡を取り合い調整できるようにする。 ○ 西山小学校との交流については、中学校への進学に向けてスムーズな学校生活を実施するための交流を継続していく。 ○ 低学年を中心とした保育所との交流・連携を実施する。 ○ 小中連携の視点で、校庭等の施設管理・安全管理を協力して行う。 	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業	5 小・中 (小・小) 連携教育の推進	
取組の状況	<p>(1) 小・中学校間連携教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 町教研連携部会を中心に中学1年生が西山小を訪問し、体育館での交流会を行った。中学生が西山小の児童が喜ぶように企画を考えて楽しませてくれた。終了後、ロードフラワー花壇に中学生と一緒に花の苗植えを行った。 ○ 中学校体験入学に参加し、中学校の授業の様子を参観するとともに部活動の見学やスクールバスの乗車体験を行った。中学進学への期待を高め、不安を解消できるようにした。 <p>(2) 小・小学校間連携教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 合同修学旅行、合同宿泊学習をとおして、5・6年が各班に分かれ、班別研修の計画を立てることや、自然の家のプログラムで協力して活動した。 ○ 5・6年生が町の水泳記録会、陸上記録会に参加し、競技を通じて交流を図った。 ○ 1～4年生は1学期に西山小での交流学习、2学期に柳津小での交流学习を行った。 ○ 朝交流として、Zoomで5・6年生が週に1回短時間で交流してきた。 <p>(3) 保・小連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大きな学校行事や避難訓練では案内を出して、保育所と小学校のつながりをもたせてきた。 	
成果と評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校との連携では、中学生が西山小の児童のために企画した交流会は児童にとって新鮮で楽しいものになった。ロードフラワーでの花の苗植えでは、中学生と協力しながら活動する経験ができた。 ○ 柳津小との交流では、1年から4年生までの積み重ねにより、互いに知っている中で交流できている。5年生から集団宿泊的行事で2日間一緒に活動することで、中学校で一緒に学ぶ仲間という意識が高まった。 	<p>達成度</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小・中連携では中学校への接続という目的があるが、中学生に西山地区を知ってもらうことにもつなげていけるように計画したい。 ○ 小・小連携では、町陸上記録会の日に1～4年生の交流を実施することで、より充実した交流の形を模索したい。 	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業	5 小・中(小・小)連携教育の推進	
取組の状況	<p>(1) 小・中学校間連携教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 現職教育や町教研授業研究部を中心とする研究授業や授業の参観及び意見交換、研究協議 ○ 西山小とのロードフラワー運動の展開 ○ 西山小学校との交流学习の実施 ○ 柳津小との合同避難訓練やごみ拾いボランティアの実施 ○ 柳津小、西山小への各種検定試験の紹介と実施 ○ 小学校6年生が中学校を訪問しての授業体験と部活動見学を実施 	
成果と評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年間を通じて、各小学校と交流や連携ができたことは、児童生徒の実態把握ができ、9年間を見通してどのような指導や支援が必要かを考える良い機会となっている。 ○ 長年続いている交流事業でも内容を工夫することで、小中の連携を強めることができた。 ○ 今年度は、6年生の中学校訪問による授業体験と部活動見学を実施できた。 	<p>達成度</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 連携を充実させるためには、計画的な実施と時数の確保が不可欠であり、小・中連携の行事の内容や実施時期、回数などについて吟味し、検討していきたい。 ○ 年間計画に地域協働活動計画を位置付け、地域の人材や教材、資源などを積極的に活用したい。小学校と中学校が9年間を見通して、体験的・探究的な学習活動を充実させることで、地域から信頼される「あ・こ・が・れ」の学校を目指したい。 ○ 食文化学習や森林環境学習、縄文観訪問では地域の人材や教材、素材を積極的に活用するとともに、小学校での学びを教科横断的に深められるようにしたい。 	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業	6 情報教育の充実	
取組の状況	<p>(1) 学校教育用パソコン等ICT整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ICT機器の効果的な活用と授業の充実・改善 ○ デジタル教科書の活用とiPadの活用による学習の効率化 ○ ICT機器の活用を通して、児童一人ひとりの習熟度や学習速度に応じたきめ細やかな指導の充実 ○ iPadを活用した研究授業・互見授業の実施 ○ 関係機関との連携による環境整備の充実 ○ ICT支援員による授業支援と事前準備 ○ プログラミング学習の充実 <p>(2) 情報モラル教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学級活動や道徳の授業を生かした情報モラル意識の向上 	
成果と評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ ICT機器を学習に効果的に活用することで、児童相互の学び合いと一人一人の深い学びを実現することができた。 ○ AIドリル等を活用することで、児童一人一人に応じた個別学習を実施することができた。 ○ 学級活動や道徳等で随時情報モラルについての指導を継続することによって、メディアを適切に活用しようとする意識が見られた。 ○ 教員のICT活用に関するスキルを高めることができた ○ ICT支援員と連携し、計画的にプログラミング学習を行うことができた。 	<p>達成度</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">A</p>
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「未来の教室」は今年度で終了するが、この事業を通して培ったICT活用スキルをさらに有効に活用するために、日々の授業実践と校内の研究授業・互見授業を行い、児童の主体的・対話的で、深い学びの実現を目指していく。また、ICTと非ICTとのベストミックスについては、今後も検証を深めていく。 ○ 西山小学校と連携して、高学年を中心にICTを活用したオンライン交流や合同授業を実施する。 ○ プログラミング教育の全体計画をもとに、各学年での教科・単元での実践記録を累積する。 	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業	6 情報教育の充実	
取組の状況	<p>(1) 学校教育用パソコン等ICT整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての教科でタブレット端末を活用しており、その用途も資料集めや発表資料、職員と児童の資料共有、オンライン学習、データ保存など様々な場面で使用してきた。 ○ 自分の考えを可視化し共有することで話し合いにつなげてきた。 ○ 家庭学習においても、学習の記録の累積や提出課題の確認、欠席時の必要な資料の配付にも役立てた。 <p>(2) 情報モラル教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の道徳科では情報モラルについて1時間程度取り扱っており、外部講師を招いた情報モラル教室を実施した。 ○ 懇談会ではSNSとの関わり方やゲーム内のチャットについて保護者に注意を呼び掛けた。 	
成果と評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ ICT支援員のサポートにより教職員のICTに関するスキルは年々高まってきている。また、授業の充実のためのICTの活用法について、互見授業を行うなど先生方の意欲も高まってきた。 ○ 児童のICTスキルについても数年間ロイロノートを継続して使用していることにより、とても慣れていて文房具としてタブレット端末を利用できている。 ○ メディアコントロールの必要性やフィルタリング、SNSトラブルについても注意喚起することができた。 	<p>達成度</p> <p style="font-size: 2em;">A</p>
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ タブレット端末の活用を積極的に進めていくが、文字や文章を書く機会が減ることで、漢字を読む・正しく書くなどの定着が乏しくならないように意識して授業を行いたい。 ○ 情報モラルは継続的に児童や保護者に働きかけていく必要がある。懇談会や個別面談等で、個に応じて支援していく必要がある。 	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

[学校教育の充実]

(学校名 会津柳津学園中学校)

基本事業	6 情報教育の充実	
取組の状況	<p>(1) 学校教育用パソコン等 ICT 整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各授業での ICT 機器の効果的な活用方法の検討 ○ ICT 支援員による研修や相談の機会の設定 ○ リモート配信による授業の実践 ○ 集会活動や行事等での ICT 機器の積極的な活用 <p>(2) 情報モラル教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 会津坂下警察署から講師を招いて講話を実施 ○ 全校集会や各学年の学級活動など活用した日頃からの啓蒙活動 	
成果と評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研修会などを通して、ICT 機器の効果的な活用方法や授業時の展開例などが共有され、教職員のスキルアップにつながった。 ○ デジタル教科書、動画コンテンツなどの利用により、生徒の活動時間を確保することができた。 ○ スクールタクトの活用により、生徒が自分の考えを表現し、友人と協働して学習する授業を構築できた。 ○ 学びポケットにある、学習支援コンテンツを利用して個に応じた学習支援を行うことができた。 ○ リモート配信による授業や各行事で効果的に使用できた。 ○ 情報教育担当をはじめ、生徒指導担当や各学級担任による、SNS 等の使用に関するルールを確認する全校集会や全校道德の機会を設けることができた。 	<p>達成度</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ ICT 機器の効果的な活用方法や指導例などについて、今後も校内研修の場の設定とそのため時間の確保に努めていきたい。 ○ 小中連携による ICT 活用の共通実践項目策定や情報交換、出前授業の実践などの交流を引き続き行っていきたい。 ○ 発達段階に応じた情報リテラシーや情報モラルに関する学習を、授業以外の場面でも実践していきたい。 ○ 情報モラル教育を教育計画に位置付けて、学級活動や道德の授業で実践していく。 ○ 学年だよりや学年通信、やないづ教育ネットによる教育活動の発信により、家庭との連携を深めるとともに、保護者への啓発にもつなげていきたい。 	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業		7 英語教育・国際理解教育の充実	
取組 の 状 況	(1) 英語教育の推進 ○ 担任とALTの連携による効果的な授業実践 ○ ICTを活用した自ら評価する英語授業の実践 ○ 「Check Your Step」を利用した定期的な自己評価 (2) 外国青年（英語指導助手）招致事業 ○ ALTを導入した外国語・外国語活動の授業充実 ○ 外国の文化、生活に触れる体験活動の実施		
	成果 と 評 価	○ ALTとのTT授業を行うことで、発音やイントネーションなど、生の音声英語に触れながら、英語でコミュニケーションを図る楽しさを味わうことができた。 ○ ICT機器を有効に利用し、自分の発音を録音・再生することでより良い発音への意識を高めることができた。 ○ 英語指導助手の外国での生活様式や学校生活などを知ることにより、他国の文化を理解する良い機会となった。また、教科横断的な学習により、日本文化を再認識することもできた。	達成度
次 年 度 へ の 課 題	○ 外国語と外国語活動の指導内容や方法について、英語指導助手と担任で連絡を密に取り合い、児童への指導効果がさらに上がるようにする。 ○ ICT機器を使った学習を継続するとともに、より効果的な学習方法を考え実践する。また、アルファベットに親しむ活動の充実を図る。 ○ 担任も積極的に英語を話すスキルを身につけられるよう研修を推進する。		

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業		7 英語教育・国際理解教育の充実	
取組の状況	<p>(1) 英語教育の推進</p> <p>○ 5・6年生の外国語科では、少人数だからこそできる発音練習の反復や文字の書き取りなどを個別に指導してきた。3・4年生の外国語活動では、基本的な会話の練習だけでなく、外国の文化にも親しみながら学習してきた。1・2年生については、配当時数はないが、毎月1時間程度外国語に触れる時間を設定し、簡単なあいさつや外国の文化に触れる機会とした。</p> <p>(2) 外国青年（英語指導助手）招致事業</p> <p>○ 昨年度末から引き続きオサマ先生に毎時間助手として支援をもらいながら授業を進めてきた。外国語によるコミュニケーション能力を高めるために、発音や英語での会話を繰り返し練習してきた。</p>		
	成果と評価	<p>○ 児童の習得できた英単語が増え、会話のやり取りも技能が高まっている。外国の文化に触れながら、英語の歌や会話の仕方を身につけ、繰り返してきたため、意欲も高い。</p> <p>○ ALTは、外国語だけでなく日本の言葉や文化にも理解があるため児童への支援も分かりやすい。</p>	達成度
次年度への課題	<p>○ 外国語や外国の文化を楽しむ基礎を身につけるとともに、英語検定にも挑戦したいという意欲を高めていきたい。</p>		

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業	7 英語教育・国際理解教育の充実	
取組の状況	<p>(1) 英語教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 英語による授業の実施 ○ ALTやデジタル教科書の音声資料を活用したネイティブによる英語の聞き取り ○ 年3回の英語検定の実施 <p>(2) 外国青年(英語指導助手)招致事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業をはじめ、英語弁論大会に向けた指導 ○ ALTの発想を生かした授業の構築 ○ パフォーマンステストやインタビューテストの指導と評価 	
成果と評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業において英語を活用する機会を多く設定することにより、英語を身近に捉える生徒が多くなった。 ○ 英語に興味関心をもち、多くの生徒が英語検定に挑戦した。合格者も大幅に増え、今年度は準2級に3名が合格した。 ○ ALTによる掲示物作成により、外国の文化等を身近に感じる環境整備を行うことができた。 	<p>達成度</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 英語科とALTの連携により、国際理解教育につながるようなICTの活用について検討していきたい。 ○ ALTの指導の時間を確保し、パフォーマンステスト等を効果的に行っていきたい。 ○ 英語検定を受験する生徒が増えたので、合格者をさらに増やしたい。 ○ 公民館事業である海外派遣事業やブリティッシュヒルズ等へ積極的に協力していく。 ○ デジタル教科書を効果的に活用して、個別最適な学習につなげたい。 	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業	8 教育環境・条件の整備充実	
取組状況	<p>(1)教材教具整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各種教材等更新整備、・学校図書購入(柳津小126冊、西山小128冊、柳学中94冊)、 ○ ICT機器購入(iPad47台、キーボード付ケース47ケ、液晶保護フィルム47枚、ノートPC1台各ソフトウェア) ○ ICT支援員の配置・・・各学校週1回 <p>(2)就学援助事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 準要保護就学援助 0名 ○ 特別支援教育就学援助 5名(柳津小4名、柳学中1名) <p>(3)児童生徒通学費補助事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 遠距離通学児童生徒の保護者を対象にバス定期券購入費補助 30名(柳津小18名、柳学中12名) <p>(4)高等学校等就学支援給付金事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 4月1日現在で住所を有し、高等学校等に通学する生徒の保護者を対象に、5万円給付64件(70名) ※3回限度(1回/年) <p>(5)高校生奨学金貸与事業・・・貸付実績なし</p> <p>(6)教職員福利厚生事業・・・生活習慣病検診、人間ドック受診</p> <p>(7)教員住宅管理事業・・・教職員等へ貸付、管理(上村2世帯、長坂4世帯分)</p> <p>(8)スクールバス運行事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スクールバス運行委託 本庁地区5路線、支所地区3路線 ○ スクールバス専用線運行委託 支所地区～柳学中 2路線 <p>(9)複式指導解消支援教員の配置・・・西山小2名</p> <p>(10)学校施設等改修整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 受電盤増設工事(柳津小)、排水路ヒーター設置工事・1階東側防火戸交換工事(柳学中)旧学校給食センター解体工事 ○ 新型コロナウイルス感染症感染予防備品購入(二酸化炭素濃度モニター、サーキュレーター、空気清浄機、大型ファン) ○自動体外式除細動器(AED)の更新(各学校) <p>(11)英語検定料補助事業 62名受験(小学生1名・中学生61名)</p> <p>(12)夏季・秋季学習会講師派遣事業(柳学中)・・・大学生や教員OBを派遣</p>	
成果と評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各事業において適正な予算執行及び契約工期に基づき完了することができた。 ○ 就学援助事業、児童生徒通学費補助事業、高等学校等就学支援給付金事業、英語検定料補助事業については、子育て支援の充実が図られ、保護者の経済的負担の軽減につながった。 ○ 新型コロナウイルス感染症換気対策として、二酸化炭素濃度モニター、サーキュレーター、空気清浄機、大型ファンを購入し感染拡大防止を図った。 	<p>達成度</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">A</p>
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校施設等長寿命化計画及び建築物定期検査等の結果に基づき、計画的に施設の改修を実施する必要がある。 ○ 教員住宅の管理について、老朽化により設備など施設改修を実施する必要がある。 ○ 更新時期をむかえるICT機器について、適正管理を行い、計画的に更新する。 ○ ICT機器やICT教材を効果的に活用できるようICT支援員と連携して授業等の充実を図る。 	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

[生涯学習の推進]

基本事業	1 興味・関心を抱く学習機会の創出と町民同士の交流促進	
取組の状況	<p>(1) シニアサークル「福寿学園」「養寿学園」の開催 ○月1回の開催・受講生：福寿学園12名、養寿学園18名。</p> <p>(2) 成人学級「悠友倶楽部」の開催 ○月1回の開催・会員数60名</p> <p>(3) 料理教室の開催 ○月1回開催・受講生延べ47名</p> <p>(4) その他の教室 ○町民企画講座 健康づくり講座他 参加者39名 ○伝統工芸教室 12月12日 参加者11名</p> <p>(5) 福島県地域創生総合支援事業（サポート事業） ○食（地産地消・自給自足）7月～1月 8回開催 参加者延べ193名 ○資源の有効活用 1月25日、11月27日開催 参加者延べ24名 ○手仕事の伝承 9月～2月 10回開催 参加者延べ83名 ○冬の運動不足解消 10月～3月 3回 参加者延べ24名 ○生きる力を育む体験教室 11月4日、1月19日 参加者延べ33名</p>	
成果と評価	<p>○新型コロナウイルス感染症が5類に移行したため、コロナ禍以前に近いメニューを企画し各教室等を開催し、参加者は楽しく生き生きと受講することができた。</p> <p>○県補助金を活用しながら、多様な学習機会を提供できたと考える。</p>	<p>達成度</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>
次年度への課題	<p>○住民が自発的な意思に基づき、生涯を通じて学び続けることができる取り組みに向けた機会と情報の提供を行う。</p> <p>○町民の意見の聞き取りやアンケート等により多様化するニーズを把握し、これまでの事業内容を再確認して事業の見直しと立案につなげる。</p>	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

[生涯学習の推進]

基本事業	2 社会教育施設の設備等の充実	
取組の状況	<p>(1) 活性化施設「ふれあい館」管理運営事業</p> <p>○地域住民の活動の拠点として、利用しやすい施設づくりに取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平日は午前8時30分～午後9時まで開館 ・土、日、祝日は午前8時30分～午後5時 <p>講座、文化団体、学校・PTA、体育関係、役場の会議、趣味のサークル、トータルスポーツ、一般会議・研修等への貸出。</p> <p>(2) 図書館整備事業</p> <p>○町広報誌による新刊図書の紹介や図書室のスペースを利用して、わかりやすい図書の紹介をして、関心を集めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規購入図書207冊 ・総数12,490冊 <p>(3) 地区集会所施設の整備補助事業</p> <p>○町内1地区集会所の改修、修繕等の助成事業を実施し、地域コミュニティの拠点づくりと環境整備等に支援。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総事業費3,190,000円 補助金総額(80%)2,552,000円 	
成果と評価	<p>○各種教室やクラブ活動、サークル活動に有効に活用していただけるよう利用促進を図っている。放課後の児童生徒の利用に際しては公共の場でのマナーを指導しつつ放課後児童の場として提供している。</p> <p>○新刊図書を購入し充実に努めるとともに、定期的に図書の入替えを行った。</p> <p>○各地区集会所の整備はコミュニティづくりに大きな役割を果たしている。</p>	<p>達成度</p> <p>A</p>
次年度への課題	<p>○多様化するニーズを把握し、地域の方の学びと交流できる施設とするための事業展開を進める必要がある。</p> <p>○立ち寄りやすい公民館として、町民の心を捉え、かつ進んで利用するように施設の構造や管理、運営をすることが必要である。</p>	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

[生涯スポーツとレクリエーションの推進]

基本事業	1 楽しさを感じるスポーツ事業の提供	
取組の状況	<p>(1) 各種町民スポーツ大会等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○飯谷山・博士山開き ※式典開催せず自由登山 ○町民ゴルフ大会 6月10日開催 参加者31名 ○壺まつり少年ソフトボール大会 7月27日開催 9チーム参加 ○姉妹都市・出雲崎町スポーツ交流事業 9月30日 出雲崎町で開催 野球11名、ソフトバレーボール14名参加 ○やないづスポーツフェスタ 10月9日 78名参加 スポーツ記録会、ヨガ教室、ボッチャ体験会、お楽しみ抽選会等実施 <p>(2) 県総体県民スポーツ大会への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> 両沼大会 3チーム入賞 会津地域大会 バドミントン優勝、壮年ソフト3位 <p>(3) ふくしま駅伝競走大会への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> 第35回市町村対抗福島県縦断駅伝大会に出場し健闘を見せた 総合成績48位、町の部成績25位 <p>(4) 市町村対抗軟式野球大会・ソフトボール大会への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> 野球:初戦 川俣町に勝利、2回戦 中島村に敗退 ソフトボール:初戦 南相馬市に敗退 <p>(5) 町体育協会運営事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 12の加盟団体で構成し、スポーツを通じて町民の体力向上のため、各種競技団体で工夫し実施している。 <p>(6) スポーツ推進委員会の開催と活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 月1回の定例会の開催と生涯スポーツの指導から立案と反省、両沼並びに県の研修会への参加、各種スポーツ教室の指導(委員数13名) 	
成果と評価	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症が5類に移行したため、町民ゴルフ大会や姉妹都市スポーツ交流事業等を再開することができた。 ○地区対抗のスポーツ大会を見直し、誰もがスポーツを楽しめる企画として「やないづスポーツフェスタ」を令和5年度から実施したところ78名の参加があった。 ○市町村対抗競技である駅伝、野球、ソフトには、昨年に引き続き町単独で出場することができた。 	<p>達成度</p> <p style="font-size: 2em;">B</p>
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢化や人口減に伴い、地区主体での参加が困難となり、スポーツをする機会が減少する懸念がある。また、スポーツを通じた健康寿命の延伸が必要である。 ○誰もがスポーツを楽しめる企画「やないづスポーツフェスタ」は、スポーツのメニューはもちろん、スポーツ以外のメニューも充実させ、運動に興味がない人も楽しみながら運動するきっかけづくりとしていきたい。 	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

[生涯スポーツとレクリエーションの推進]

基本事業	2 スポーツ施設及び設備の整備充実	
取組の状況	<p>(1) 運動公園施設整備事業</p> <p>○「NPO法人赤べこトータルスポーツ」に管理委託して5年が経過し、民間による施設の有効活用が順調に図られている。</p> <p>○体育館は昭和54年、武道館は昭55年に建設、今年度で45・44年目を迎えた体育館は高天井照明器具LED球1台交換。</p> <p>年間利用者数10,879人(町民9,579人、町外1,300人) 内訳：体育館10,082人(町民8,926人、町外1,156人) 武道館797人(町民653人、町外144人)</p> <p>○プールは昭和56年に建設、屋根シート更新等に向けて検討が必要である。</p> <p>年間利用者数2,365人(町民2,053人、町外312人)</p> <p>○テニスコートは昭和59年に建設、LED照明化に向けて計画的な予算措置が必要である</p> <p>年間利用者数2,344人(町民1,571人、町外773人)</p> <p>○グラウンドは老朽化している照明盤の修繕を実施。照明灯は製造中止の見込であり今後LED化に向けて計画的に予算措置していく必要がある。</p> <p>年間利用者数3,630人(町民2,409人、町外1,221人)</p>	
成果と評価	<p>○B&G関係施設は各種大会や教室、スポ少、部活動、スポーツ合宿等利用が多く、地域住民の健康と青少年の健全育成の場として高く評価できる。また、震災後は町内宿泊施設利用者に対する施設無料措置を継続し、夏場にスポーツ合宿招致をはじめ、町内への誘客促進に寄与している。</p> <p>○運動公園施設は近隣市町村の利用も多く、昭和54年建設から44年が経過し、老朽化が進んでおり施設の改修や長寿命化に向けて計画的に実施することが必要。</p>	<p>達成度</p> <p>B</p>
次年度への課題	<p>○施設の修繕箇所が多くなっていることから、必要に応じた対応として修繕計画等を作成する必要がある。</p> <p>○民間スポーツ団体が施設に席を置くことにより、町スポーツ振興の拠点として官民連携し大いに活用を図る。</p>	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

[生涯スポーツとレクリエーションの推進]

基本事業	3 指導者の確保とスポーツ団体への支援	
取組 の 状 況	<p>(1) 町体育協会及びスポーツ推進委員会の活動支援</p> <p>○体育協会 町民の体力向上を図り、スポーツ人口の底辺拡大を目指し、町民の健康づくりに寄与する。各事業の主催やその他事業への協力を実施。</p> <p>12団体活動</p> <p>○スポーツ推進委員会 必要に応じて定例会を開催し、スポーツ事業の計画・精査・各種スポーツ事業の運営支援。 委員13名（男性11名、女性2名）</p> <p>(2) 赤べこトータルスポーツの活動支援</p> <p>クラブマネージャーが活動計画や運営に携わっている。</p> <p>活動場所として、運動公園施設、ふれあい館を無償で提供している。</p> <p>町事業の委託やトータルスポーツ独自の活動を実施している。また、近隣町村への事業にも活動範囲を広げている。</p>	
	成果 と 評 価	○地域スポーツを推進するための担い手不足や組織の活性化が必要である。
○住民の体力増進や青少年の健全育成など貢献度は大きい。		C
次 年 度 へ の 題	<p>○町で一定の支援をするものの、それぞれが自立できるよう助言、指導したい。</p> <p>○スポーツの楽しさや技術向上を図るうえで必要な指導者を育成、確保が必要</p>	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

[地域行事の継承、文化財の保存・活用と芸術文化の振興]

基本事業	1 文化財の適切な保存・管理	
取組の状況	<p>(1) 町指定文化財管理事業 ○国・県・町指定文化財18件(国2件、県2件、町14件)</p> <p>(2) 縄文館活用事業 ○石生前遺跡出土品の整理と企画展等の実施による利活用を実施 文化財整理指導員と文化財整理員の2名でより適切に保存・管理を行い今後の効果的な活用を図るため収蔵庫内を整理し、台帳を作成。また、今後国指定重要文化財を目指すため基礎的なデータ整理を実施。企画展「奥会津の縄文展」等を実施し当町の縄文文化を町内外へ発信した。</p> <p>(3) 食文化ストーリー事業 ○急速に失われている地域の伝統食調査・記録・研究を進めるとともに、地域の文化的な価値の継承と発信によりシビックプライドの醸成や文化観光の基礎づくりを進めている。 保存食材料の採取・栽培・加工・流通・保存の記録、隣接地域等との比較考察に向けた調査、専門家等による検討会・助言指導、成果共有のための報告会を実施した。</p> <p>(4) 軽井沢銀山煙突保存事業 ○軽井沢銀山施設跡地(事務所跡、墓石、郵便局跡)に木製標柱を設置</p> <p>(5) 文化財火災防御訓練の実施 ○奥之院弁天堂、圓藏寺周辺での防御訓練 柳津町消防団・圓藏寺自衛消防隊合同防災訓練と同時開催</p>	
成果と評価	<p>○池ノ尻遺跡出土品である人体像把手付土器を今後の利活用に向けた保存修理を行った。</p> <p>○企画展「奥会津の縄文展」では、文化財整理指導員によるバックヤードツアー等を実施し多くの方に当町の縄文文化を発信することができた。</p> <p>○現地調査を通じて分かった内容や記録を整理し動画や冊子等にまとめながら食文化の体験会など開催できた。また、将来的な文化観光や持続可能な地域づくりと地域経済の循環形成に向けた基軸が形成できた。</p> <p>○軽井沢銀山施設跡地に木製標柱を設置し来訪者の利便性が向上した。</p>	<p>達成度</p> <p>A</p>
次年度への課題	<p>○縄文土器の再整理を進めるとともに縄文館の利活用を図る必要がある。</p> <p>○担い手の育成や無形文化財登録に向けた機運を高めていき、将来的な文化観光も視野に入れた持続可能な地域づくりや、ゆるやかな地域経済の循環形成に努めていく。</p> <p>○軽井沢銀山跡煙突の保存に向けては、これから写真や一次資料を探索する。</p>	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

[地域行事の継承、文化財の保存・活用と芸術文化の振興]

基本事業	2 有識者、関係機関との連携	
取組の状況	<p>(1) 柳津町文化財保護審議会の開催</p> <p>○文化財保護審議会の開催 (年2回) 現地研修 11月14日～15日 研修地 千葉県佐原市他 (国立歴史民族博物館、伊能忠敬記念館他)</p> <p>(2) 有識者や関係機関との協力</p> <p>○食文化ストーリー事業において奥会津「命をつなぐ」伝統的保存食文化調査事業を実施し、専門家等による検討会・助言指導をいただくと共に、成果共有のための報告会を実施した。</p>	
成果と評価	<p>○まちづくりへの活用を積極的に進め多くの方が歴史や伝統文化等に触れられるよう専門性を持った人材を育成する必要がある。</p> <p>○奥会津での冬季に向けた保存食とその保存食を使った伝統食について、有識者の指導や継承者の協力を得ながら伝統食の再現・調査整理を行い、全33集落で111種の伝統食の調査を行うことができた。</p>	<p>達成度</p> <p style="text-align: center;">B</p>
次年度への課題	<p>○大学や博物館等との連携による調査研究を深めるとともに、文化財保護審議会や有識者の指導を受けながら新たな地域資源(食文化、伝統行事等)の保存に努める。</p> <p>○担い手の育成や無形文化財登録に向けた機運を高めていき、将来的な文化観光も視野に入れた持続可能な地域づくりや、ゆるやかな地域経済の循環形成のため、地元関係者の他、専門家を含めた組織作りが必要である。</p>	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

[地域行事の継承、文化財の保存・活用と芸術文化の振興]

基本事業	3 やないづ町立斎藤清美術館の充実
取組の状況	<p>(1) 斎藤清展事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○企画展の実施（年4回開催） <ul style="list-style-type: none"> ・春季企画展「斎藤清マチエールの冒険」4.22～7.2 ・夏季特別企画展「こどもとたのしむ こどもがたのしむ さいとうきよし」7.15～9.24 ・秋季企画展「絵の中にしかない、風景」10.7～12.10 ・冬季特別企画展「会津人士交流録－斎藤清と会津の画家たち」 前期：12.23～2.4 後期：2.10～3.24 <p>(2) 県外斎藤清展推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○オリジナルグッズの館外販売（東京都美術館、似鳥美術館） <p>(3) 滞在的アートプロジェクト事業、地域アートプロジェクト事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域住民が気軽に参加できるトークイベント・講演会・ワークショップ <ul style="list-style-type: none"> ・「館長講座」7月15日、9月2日、11月18日 ・「学芸員講座」6月17日、8月12日、10月21日 ○ミュージアムカフェ <ul style="list-style-type: none"> ・5月の土日祝日 13日間、秋季土日祝日 14日間 ○筑波大学、武蔵野美術大学及び日本大学との連携イベント <ul style="list-style-type: none"> ・「版画の現在地」11月11日～1月14日 学生の作品を展示 23点 ・関連ワークショップ「まわしてびっくり！回転版画に挑戦」11月26日 ・美術館が所有する斎藤清絵本について、筑波大学と連携しデジタル技術を活用した作品を制作 「炭ヤク里ノ子」、「北海ノ子」 ○地域おこし協力隊事業 <ul style="list-style-type: none"> ・企画展関連ワークショップ 3回 ・アートワークショップびじゅつ部 3回 ・地域おこし協力隊ワークショップ 4回 ・おはなし鑑賞会 柳津・西山小学校全学年実施 <p>(4) 作品等収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ○県内美術商より斎藤清作品（木版画）3点を購入 ○代表作品、デッサン、墨画など未収蔵作品等の情報収集 <p>(5) 施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ○入館者の安全確保のために自動ドア防護柵を設置 ○収蔵作品を虫害やカビ害から守るために収蔵庫の除塵・除菌処理を実施

<p>成 果 と 評 価</p>	<p>(1) 入館者数 12,111 人 (R4 年度 15,653 人、22.63%減) 年 4 回の企画展を実施したが、開館 25 周年を記念し所蔵全作品及び資料約 1,000 点を年 11 回に分けて展示した「斎藤清大コレクション展」を実施した令和 4 年度と比較すると 3,542 人の減少となった。 新型コロナウイルス感染症も 5 類感染症に移行されたことに伴い、外出自粛の要請などもなくなったことにより、客足の回復傾向が見られた。</p> <p>(2) 収入額 25,233 千円 (R4 年度 25,208 千円、0.1%増) 入館者数の減少にともない、入館料については令和 4 年度よりも 398 千円減少したが、グッズ販売収入については 423 千円増加した。</p> <p>(3) 展示以外に企画展とあわせてカフェやコンサートを行った。</p> <p>(4) 地域に根ざし、開かれた美術館を目指すため、筑波大学や武蔵野美術大学との連携事業や、地域おこし協力隊による各事業を行った。</p> <p>(6) 専門的な知見を有した美術館長の適切な指導助言により、上記事業について取り組みが焦点化され、成果をあげることができた。</p>	<p>達成度</p> <p>B</p>
<p>次 年 度 へ の 課 題</p>	<p>(1) 集客のための斎藤清ブランドの再構築が必要 ○公式 HP の内容充実と公式 SNS である facebook、Instagram、YouTube での情報発信の強化・拡充 ○斎藤清展パッケージウェブサイトを活用した海外も含めた他館での展覧会の開催に向けた PR ○新たなファン獲得に向けた企画の検討</p> <p>(2) 斎藤清アーカイブの継続的实施 ○作品の収集・研究・展示という美術館の基本サイクルの徹底 ○斎藤清を知る人からの情報収集</p> <p>(3) 町民に美術をより身近なものとして捉えてもらうために、町内小中学校や、関係各課と連携し、子供から高齢者の方まで町民が気軽に訪れることができる環境づくりに取り組んでいく必要がある。</p> <p>(4) 電子決済の導入 キャッシュレスが急速に普及してきており、来館者のキャッシュレス利用意向は高まっている状況にある。来館者へのサービス向上、業務効率化の面からも、入館料やグッズ販売等に伴う支払方法について、キャッシュレス決済の導入を検討していく必要がある。</p>	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

IV 点検・評価に関する有識者の意見

有 識 者 名 簿

【敬称略】

No.	職 名	氏 名
1	柳津町文化協会長	佐 藤 長 八
2	柳津町体育協会長	齋 藤 幹 夫
3	柳津町人権擁護委員代表	鈴 木 晴 美
4	柳津町主任児童委員	荒 木 南 枝
5	柳津町主任児童委員	菊 地 由 枝
6	柳津小学校PTA会長	田 崎 泰 之
7	西山小学校PTA会長	山 内 諦 真
8	会津柳津学園中学校PTA会長	鈴 木 綾

IV 点検・評価に関する有識者の意見

1 点検・評価に関する有識者について

学識経験者の知見の活用については、本町の教育行政に関わりのある以下の方々を点検・評価に関する有識者として選任し、ご意見をいただきました。(敬称略)

- ・佐藤 長八 〈柳津町文化協会長〉
- ・齋藤 幹夫 〈柳津町体育協会長〉
- ・鈴木 晴美 〈柳津町人権擁護委員代表〉
- ・荒木 南枝 〈柳津町主任児童委員〉
- ・菊地 由枝 〈柳津町主任児童委員〉
- ・田崎 泰之 〈柳津小学校PTA会長〉
- ・山内 諦真 〈西山小学校PTA会長〉
- ・鈴木 綾 〈会津柳津学園中学校PTA会長〉

2 点検・評価に関する有識者の意見(順不同)

(1) 教育委員会の活動状況について

- 定例会等の出席に於いて協議を重ね、良好な指導についてよろしくお願いたします。新型コロナウイルス感染症対策が終っても、新たな感染症が次から次へと出て来て、特に学校関係の対策は気が休まることのないようですが気を抜かず昔から基本的な「手洗い、うがい、マスク」といったことは本当に大切なことだと感じますので、御指導をよろしくお願いたします。
- 丁寧な用語解説、ありがとうございます。
- 海外派遣事業により、子供達の目が国外に向けられ、グローバルな見方、考え方が育まれると思う。これからも継続して欲しい。
- 日々御苦労様です。そして、ありがとうございます。大人から子供、赤ちゃんまで、、と幅広く教育っている風にかかわってくるのだと思います。ここから先は、ここから後は、という事だけではなく、ほんとうにかかわって頂いて、なげかけて頂いて町民みんな巻き込んでいって柳津町がもっと成長できるようにパイプ役で発信して頂いたら、そんな風にかかわってもらえたらありがたいかなと思います。
- 年間を通して、定例会・臨時会が必要に応じて開催されており、審議・協議内容についても事細かく明文化してあるので、資料に目を通すことで内容が良く把握できるものだと思います。また主な活動として年中行事等町内の事だけでなく、教育委員としての重責を全うしている内容だと思います。懸案事項と敢えて挙げるならば、町の中で少数(教育委員)で行う事による、個人負担はこれだけの多くの出席要望に応えるのは大きなものだと感じます。集約出来る

内容はあまり無いかも知れないのですが、内容の精査をすることで負担軽減につながる事があれば…と思います。

- 学校行事のみならず、町の文化、スポーツ行事等、たくさんの部門でご活躍されていることを知り、感銘を受けました。毎月の定例会でも多様な議題に対する協議等がされており、柳津町のため、子供たちがより良い教育を受けられるようにするために、ご尽力いただき感謝申し上げます。今後も何が起こるか分からない時代の中で、子供たちが笑顔で生きていける柳津町になるよう、皆様の益々のご活躍を期待申し上げます。

(2) 各重点施策の点検・評価について

- 達成度を4段階としている中で、ほぼ全ての項目でA、B評価なのは素晴らしいとは思いますが、単年度での評価が複数年度の評価をしたときに、継続的に同じ評価をたたき出すために更なる支援は必要不可欠かとは思いますが。中でも達成度Cである指導者の確保とスポーツ団体への支援事業では、高齢化で実質活動出来る人の確保自体が難しい問題になってくると思います。またそれぞれの項目に対して次年度の課題が挙げられているので、その課題を達成する為に次年度取り組むべきだとは思いますが、少人数では限界があるので、内容を精査(多項目や長文をスッキリハッキリする)しそれに取り組むべき人たちに周知することは必要だと感じます。

◇学校教育の充実

- やないづ町が目指す子どもの姿に向かい、各学校が特色ある教育を今後も実施して頂きたい。
- どの事業においても、各校の先生方、教育委員会の方々が、児童、生徒のため、熱心かつ丁寧な教育活動をされていることを肌で感じました。柳津町の子供たちは恵まれており、充実した学校生活が送れていることと思います。目標達成のための改善点はあるかと思いますが、重点施策に対する事業の取り組みについては大変素晴らしく、達成度はすべてAだと思います。専門用語の解説も非常にありがたいです。

①確かな学力の向上(かしこい子どもに)

・町営の学習塾があると良いと思う。

②豊かな心の育成(意欲をもってやり抜く子どもに)

・人権への関心を持って頂けたことに今後を期待します。

・SSWの人員、人数の詳細を教えてください。

<回答>会津教育事務所所属の地区担当SSWを活用しています。

SCが1名だけなので連携できれば良いと思う。

③健やかな身体の育成(たくましい子どもに)

④特別支援教育の充実

⑤小・中連携教育の充実

- ・保・小・中の連携もして欲しい。

⑥情報教育の充実

- ・リモート学習については、特に英語力、数学力等、多方面にわたり学習が出来る環境作りが重要だと思います。ICTの利用は、次世代にふさわしい対策をとっていただきたいと思います。
- ・今後益々重要視されICT機器の活用や支援、スキルアップが求められる時代であると感じます。ただ、昭和世代の私は、西山小学校の次年度への課題を読んでホットしました。私も同感です。本を読んだり、紙に書いたり、方言で話したりすることも忘れないでほしいものです。
- ・ICT機器活用により児童一人一人に応じた学習が可能になり良かったと思う。

⑦英語教育・国際理解教育の充実

- ・子供向けの英会話教室を希望します。

⑧教育環境・条件の整備充実

- ・小から高の生徒において、支援、補助等の事業が充実していて大変良いと思います。

◇生涯学習の推進

- 町民同士が交流を持てるサークルや、料理教室等、私も大変興味があります。現在は参加することが難しいですが、これから機会があれば参加したいです。ふれあい館、図書館ともに、子供たちの放課後の待機場所、その他会議や講演会等、大変利用しやすく、コミュニティの場としてありがたく利用させていただいております。

①興味・関心を抱く学習機会の創出と町民同士の交流促進

②社会教育施設の設備等の充実

◇生涯スポーツとレクリエーションの推進

- 利用者や参加者の立場になり、企画立案し、利用しやすい施設管理運営を行うとともに有資格者や経験者の活用が出来れば良いのですが。
- 町民アンケートの結果を最重要と考え、結果ばかり気にして、少ないからやらないというようなかたよった行動はするべきでないと思います。町民運動会は、やはり全町民の最大の親睦・融和を図る大イベントだと思います。子供から大人までの交流の場があまり無くなった感じがします。笑いの場が欲しいです。楽しさを実感出来るスポーツとは？と疑問を感じます。

○ 冬場のスポーツについて（体力作り）

雪国にとって、ウィンタースポーツに触れる機会が少ないと思います。もっと積極的に出来る環境作りが大切だと思います。子供の頃から冬に親しみ大人になっても雪をうらむ生活はしたくありません。雪を楽しめる心が沸くようなことが必要だと思いますので、その対策をお願いいたします。

○ 少子化の影響もあり、柳学中における運動部は少数になってきています。その中で大人の方々が楽しさを感じながら、各スポーツ大会において柳津町単独で出場し、ご健闘されていることが大変すばらしく、可能なかぎり子供たちもそれを継承してほしいと願います。指導者の確保とスポーツ団体への支援の達成度がやや低くなっておりませんが、次年度以降課題を克服し、子供たちにはまずスポーツの楽しさ、次に技術向上のためのご指導、多様なニーズへの対応ができる指導者の方の養成や確保ができることを期待します。

①楽しさを感じるスポーツ事業の提供

②スポーツ施設及び設備の整備充

③指導者の確保とスポーツ団体への支援

- ・NPO赤べこトータルスポーツクラブの充実を図り、指導者育成等、もっと幅広い活動が出来るような取組が必要ではないかと思えます。
- ・スポーツ指導者の確保、参加者やスポ少などの加入を増やすため、活動時間や日程などを協議した方が良いと思う。

◇地域行事の継承、文化財の保存・活用と芸術文化の振興

○ 歴史深い柳津町の伝統文化や生活習慣を後世に残したいと思う町民は大変多いと感じます。担い手不足や有識者が減少する中、難しいことですが是非、地域文化編纂室のような係を作り資料収集をこれからも進めて頂きたい。

○ 柳津町で発掘された縄文遺跡が県立博物館に展示されており、大変すばらしいものなのだと改めて感じました。縄文遺跡や銀山跡煙突等の文化財、斎藤清美術館、いずれも適切に保存管理がされており、今後也有識者や専門家と連携して、研修会や講演会等を取り入れ、もっともっと魅力をPRして欲しいです。

○ 我が町には、指定、無指定でも多くの文化財が存在します。この活用方法を考えたいと思います。これからの時代を担う若者にもっとよく知って貰って、町の誇りを高めたいと思います。

①文化財の適切な保存・管理

- ・縄文館のアピールとさらなる活用事業を希望します。

②有識者、関係機関との連携

③やないづ町立斎藤清美術館の充実

- ・版画の公募展の開催を提案します。規模は初めは小さくていいと思います。

《資 料》

令和5年度 柳津町教育委員会の点検・評価の概要

柳津町教育委員会は、要綱に基づき、令和5年度の教育委員会に属する事務の管理及び執行状況について、次のとおり点検・評価を行います。

(1) 点検・評価の対象（項目）

「柳津町教育委員会の活動状況」及び「柳津町教育委員会の重点施策」

① 柳津町教育委員会の活動状況

柳津町教育委員会の開催及び審議状況、教育委員の主な活動、教育委員会の情報発信等

② 柳津町教育委員会の重点施策

令和5年度柳津町教育委員会重点施策について、「取組の状況」「成果と評価」「次年度への課題」の視点から、それぞれ点検・評価を実施する。

※「達成度」については、重点施策ごとに、A（十分に達成）、B（ほぼ達成）、C（やや不十分）、D（不十分）の4段階で評定

(2) 学識経験者の知見の活用

柳津町小中学校保護者を含む教育関係者等、教育に関し知見を有する方から、柳津町教育委員会の内部評価について意見をいただく。

※令和5年度の点検評価学識経験者

- ・文化協会長・体育協会長・人権擁護委員代表・主任児童委員
- ・町立小中学校PTA会長

(3) 点検・評価の経緯

柳津町教育委員会では、次の手順で点検・評価を実施する

① 各学校での内部評価（3月～4月）

○重点施策「学校教育の充実」

② 教育委員会の内部評価（9月～11月）

- 教育委員会の活動状況のまとめと評価（学校教育係）
- 事務事業の取組（進捗）状況のまとめと評価（各係）
- 事務事業の評価に基づく重点施策の評価（学校教育係）

③ 学識経験者からの意見聴取（1月～2月）

④ 点検・評価についての審議及び決議（2月教育委員会定例会）

⑤ 点検・評価報告書を柳津町議会へ提出（3月議会全員協議会）

⑥ 町ホームページ等で町民への公表（3月～）

柳津町教育委員会事務管理及び執行状況の点検・評価実施要綱

柳津町教育委員会

(目的)

第1条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和36年法律第162号。以下「法」という。）第27条の規定に基づき、柳津町教育委員会（以下「教育委員会」という。）が実施する教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の対象)

第2条 点検・評価の対象は、教育委員会の活動状況及び教育委員会が定める重点施策とする。

(点検及び評価の期間)

第3条 点検・評価は、当該年度の前項に規定する事項について行うものとする。

(資料の整理等)

第4条 点検及び評価に資するため、事務局（法第18条に規定する事務局をいう。以下同じ。）は、第2条に規定する事項について必要な書類を整理する。

(点検及び評価)

第5条 点検及び評価は、前条に規定する資料に基づき、学識経験者の意見を聴取した上で教育委員会において行う。

(点検・評価に関する有識者)

第6条 教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、「点検・評価に関する有識者」を置く。

2 点検・評価に関する有識者は、小中学校保護者及び教育関係者等、教育に関し知見を有するものの中から教育委員会が選任する。

(議会への報告等)

第7条 教育委員会は、当該年度の点検及び評価を行った後、その結果をまとめた報告書を作成し、これを柳津町議会へ提出するとともに公表する。

(庶務)

第8条 点検及び評価の実施に関する庶務は、教育課学校教育係において行う。

(委任)

第9条 この要綱に定めるもののほか、必要事項は別に定める。

附 則

この要綱は、平成21年2月27日から施行する。